DRUG INFORMATION

２０１１　Ｎｏ．２１　　平成２３年５月１２日発行

フェノール含有院内製剤を使用する際にはご注意ください！

岐阜大学医学部附属病院薬剤部
医薬品情報管理室
（内線７０８３）

※　Drug Information は医学部・附属病院 HP の下記アドレスにて提供しています。
http://www1.med.gifu-u.ac.jp/web/drug-info/

電子メールによる連絡を希望される方は下記までご連絡下さい。
di8931@gifu-u.ac.jp（担当：安田）

フェノール含有院内製剤を使用する際にはご注意ください！

このたび、フェノールを含有する院内製剤を使用する際に誤って患者に皮膚障害を生じさせてしまった事例が報告されました。フェノールは以下に示すように非常に毒性が強く腐食性のある薬剤です。改めてフェノールの危険性を認識していただき、今後フェノール含有院内製剤を使用する際には細心の注意を払ってご使用いただくとともに、患者に対して十分な説明を実施していただきますようお願い致します。

【フェノールの毒性】

フェノールには**強い腐食作用**があり、濃厚液が皮膚に接触した場合、局所が白色となり、ついで発赤が現れ、褐色の痂皮を形成して剥脱します。5%溶液でも腐食することが分かっていますので、低濃度であっても取り扱いには注意が必要です。また、眼に入った場合には、重症の角膜障害を起こす危険性があり、場合によっては失明に至ることもあります。

【事故時の対応】

〈皮膚に触れた場合〉

・多量の水あるいは石鹸水で十分に洗い流すとともに、さらに 15 分間流水で水洗を行う。
・ポリエチレングリコール、またはそのアルコールとの混合物、オリーブオイル、ワセリンが直ちに使用できる場合は、水洗前に洗浄すると効果的である。

〈眼に入った場合〉

・清浄な流水で最低でも 15 分間は、眼球とまぶたの隅々まで洗浄する。
・眼球に固着していない限り、コンタクトレンズは取り外す。

【引用文献】

1) 日本医薬品集フォーラム　監修 Drug In Japan 2011　じほう
2) 第十五改正 日本薬局方　廣川書店
3) 中毒ハンドブック　監修 坂本哲也　メディカル・サイエンス・インターナショナル
4) 薬・毒物中毒救急マニュアル改訂 6 版　医薬ジャーナル
5) 化学物質等安全性シート（フェノール）